

感染症発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況

- 2024 年 -

八木耕太郎 馬場穰太郎 松澤凜大 角山広樹 鹿島かおり

Infectious disease surveillance reports in Saitama Pref. in 2024

Kotaro Yagi, Jotaro Baba, Rio Matsuzawa, Hiroki Tsunoyama, Kaori Kashima

はじめに

感染症発生動向調査事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の第12条から16条に基づく全国サーベイランスである。この事業は一類から五類感染症、新感染症及び新型インフルエンザ等感染症の患者を診断した医師からの届出を受け、感染症の地域的な流行の実態を早期かつ的確に把握し、その情報を速やかに還元するものである。当所では2004年から「感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づく基幹地方感染症情報センターとして、埼玉県における感染症の発生についての情報収集、解析及び提供を行っている。

今回は2024年の感染症発生動向調査に基づく埼玉県の患者発生状況について報告する。

対象及び方法

感染症法に定められる感染症について、埼玉県基幹地方感染症情報センターとしてさいたま市、川越市、越谷市及び川口市を含む県全域から収集した届出を対象とした。新型コロナウイルス感染症を除く疾患の届出数の集計には、従来と同じく感染症サーベイランスシステムの感染症発生動向調査システム及び異常事象検知サーベイランスサブシステムに登録された2025年2月時点の確定数をダウンロードして用いた。

全数把握対象疾患は診断日が2024年1月1日から2024年12月31日に属する届出を、定点把握対象疾患のうち、週単位報告対象疾患は2024年第1週（2024年1月1日～2024年1月7日）から52週（2024年12月23日～2024年12月29日）まで、月単位報告対象疾患は、2024年1月から12月までの報告を対象とした。定点当たり報告数は、定点における患者数を各週もしくは各月における定点数で除した値とした。定点当たり報告患者総数は、累積報告患者数を平均定点数で除した値とした。なお、平均定点数は、インフルエンザ定点数・小児科定点数・眼科定点数は小数点以下を切り捨て、性感染症定点数・基幹定点数は小数点第2位以下を切り捨てた。年齢別の集計は、全数把握対象疾患では10歳ごとの階級に分け、定点把握対象疾患では感染症発生動向調査事業の報告書式の年齢階級を適用した。

結果

1 全数把握対象疾患の発生状況

一類から三類感染症の届出数を表1-1に、四類感染症を表1-2に、五類全数把握対象疾患を表1-3にそれぞれ示した。

(1) 一類感染症

一類感染症は疑似症を含め届出はなかった。

(2) 二類感染症

二類感染症は、結核728例の届出があった。性別では男429例、女299例であった。類型は患者が472例、無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）が254例、疑似症患者が2例で、患者は前年の523例と比べ減少した。

男では患者が292例、無症状病原体保有者が136例、疑似症患者が1例であった。年齢階級別では60歳以上が61.3%で、80歳代89例、70歳代85例の順に多かった。女では患者が180例、無症状病原体保有者が118例、疑似症患者が1例であった。年齢階級別では60歳以上が59.9%で、最も多い年代は80歳代の74例であった。

年代別の患者の経年推移では、65歳以上の割合は前年と同水準であった。また、前年に引き続き小児（0～14歳）の報告は無かった。

(3) 三類感染症

三類感染症は、細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症183例、腸チフス2例であった。

1) 細菌性赤痢

9月に20歳代の男及び60歳代の女の計2例の届出があり、前年の9例から減少した。前者は無症状病原体保有者で、菌種は*Shigella flexneri*（B群）であった。後者は患者で、菌種は*Shigella sonnei*（D群）であった。いずれも診断方法は、便からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域は、前者がバンガラデシュ、後者が国内であった。

2) 腸管出血性大腸菌感染症

男87例、女96例の計183例の届出があり、前年の167例より増加した。症例の年齢は1歳から80歳代まで幅広く分布し、年齢階級別では、20歳代が57例と最も多かった。過去5年と比較すると、10歳未満の届出は少なく、20歳代の届出は多かった。類型は、患者が

113例、無症状病原体保有者が70例で、前年と比べて患者は同水準であり、無症状病原体保有者は増加した。月別の届出数は8月が最も多く23例であった。例年の流行期に該当する6月～9月の届出数は79例であり、前年の101例と比べて減少したが、1月～5月及び10月～12月の届出数は104例で、前年の66例と比べて大きく増加した。

患者の0血清型は、0157が78例(OUT同時検出1例を含む)と最も多く、次いで多かったのは026の12例であり、いずれも前年と比べて同水準であった。その他の血清型は0103及び0111が各5例、0115が2例、08、055、076及び0128が各1例、OUTが7例であった。

無症状病原体保有者の0血清型は、0157が21例、026が2例で、いずれも前年の届出数を下回った。その他の血清型は、091、0115及び0128が各4例、08(025同時検出1例を含む)及び0103が各3例、055が2例、0111、0121、0145、0168、0178及び0181が各1例、OUTが20例、不明が1例であった。その他の血清型の合計は47例で、前年の21例から大きく増加した。

溶血性尿毒症症候群(HUS)患者は、10歳代の女1例で確認された。検出された大腸菌の血清型及び毒素型は0157:H7 VT2であった。

3) 腸チフス

20歳代の男及び10歳未満の女、計2例の届出があった。類型は前者が無症状病原体保有者で、後者は患者であった。診断方法はいずれも分離・同定による病原体の検出であり、検体は前者が便、後者が血液であった。推定感染地域はいずれも国外で、前者はインドネシア、後者はバングラデシュであった。なお、後者は現地で診断された症例であった。

表1-1 一類、二類、三類感染症の届出数

	疾患名	埼玉県		
		2024年	2023年	2022年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	728	762	757
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群(SARS)	0	0	0
	中東呼吸器症候群(MERS)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	2	9	0
	腸管出血性大腸菌感染症	183	167	144
	腸チフス	2	3	1
	パラチフス	0	1	0

(4) 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎39例、A型肝炎4例、つつが虫病3例、デング熱11例、日本紅斑熱1例、日本脳炎1

例、ブルセラ症1例、マラリア3例、ライム病1例、類鼻疽1例、レジオネラ症141例、レプトスピラ症1例の計207例であった。

1) E型肝炎

男31例、女8例の計39例の届出があり、前年の43例を下回った。症例の年齢は30歳代から80歳代に分布し、50歳代及び60歳代が各12例で多かった。類型は患者が37例、無症状病原体保有者が2例で、診断方法は血清IgA抗体の検出のみが21例、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgA抗体の検出が15例、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出のみが2例、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が1例であった。推定感染経路は経口感染16例、不明23例で、推定感染地域は国内29例、不明10例であった。届出は年間を通して確認され、無症状病原体保有者の2例のうち1例は献血により探知された症例であった。

2) A型肝炎

男2例、女2例の計4例の届出があった。症例の年齢は20歳代、50歳代、60歳代及び80歳代が各1例で、全症例で類型は患者であった。診断方法は血清IgM抗体の検出のみが3例、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が1例であった。推定感染経路は、経口感染が2例、不明が2例で、推定感染地域は国内が3例、不明が1例であった。また、ワクチン接種歴は、無しが3例、不明が1例であった。

3) つつが虫病

11月に50歳代の男2例、12月に50歳代の男1例の計3例の届出があった。診断方法は、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及び間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清IgM抗体の検出が1例、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出のみが1例、間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清IgM抗体の検出のみが1例であった。推定感染地域は全て国内(県外)であった。

4) デング熱

男8例、女3例の計11例の届出があり、前年の9例を上回った。病型は全症例でデング熱であり、症例の年齢は9歳から40歳代に分布した。診断方法は、血液(血清又は全血)での非構造蛋白抗原(NS1)の検出のみが5例、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出のみが4例、血液(血清又は全血)での非構造蛋白抗原(NS1)の検出及び検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出が2例であった。推定感染地域は全症例が国外であり、インドネシア及びフィリピンが各3例、アラブ首長国連邦、インド及びスリランカが各1例、複数の感染地域が推定される者として、インドネシア又はマレーシア、インドネシア又はフィリピンが各1例であった。

5) 日本紅斑熱

2020 年以降届出がなかった日本紅斑熱は、1 月に 50 歳代の男 1 例の届出があった。診断方法は、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及び間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法によるペア血清での抗体価の有意上昇であった。推定感染原因は動物・蚊・昆虫等からの感染で、推定感染地域は国内（県外）であった。

6) 日本脳炎

10 月に 60 歳代の女 1 例の届出があり、埼玉県としては感染症法の施行（1999 年）以降、初の届出となった。類型は患者で、診断方法はペア血清での赤血球凝集阻止抗体の検出であった。推定感染原因は動物・蚊・昆虫等からの感染で、推定感染地域は国内（詳細不明）であった。

7) ブルセラ症

2018 年以降届出がなかったブルセラ症は、6 月に 50 歳

代の女 1 例の届出があった。診断方法は、分離・同定による病原体の検出であり、推定感染地域は中華人民共和国であった。

8) マラリア

6 月に 50 歳代の男、7 月に 30 歳代の男、9 月に 30 歳代の男の計 3 例の届出があった。病型は熱帯熱が 2 例、三日熱が 1 例であった。診断方法は、血液検体の鏡検による病原体の検出及び血液検体の核酸増幅法による病原体遺伝子の検出が 2 例、血液検体の鏡検による病原体の検出のみが 1 例であった。推定感染地域はギニア、ナイジェリア及びパキスタンが各 1 例であった。

9) ライム病

過去 10 年で 2 例（2014 年及び 2023 年で各 1 例）の届出があったライム病は、5 月に 30 歳代の女 1 例の報告があった。診断方法は検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及び Western Blot 法による血清抗体の検出で、推定感染地域はルーマニアであった。

10) 類鼻疽

2020 年以降届出がなかった類鼻疽は、7 月に 50 歳代の男 1 例の報告があった。診断方法は分離・同定による病原体の検出及び検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出で、検体はいずれも喀痰及び血液であった。推定感染原因是塵埃感染で、推定感染地域はベトナムであった。

11) レジオネラ症

男 116 例、女 25 例の計 141 例の届出があり、前年の 112 例と比較して増加した。症例の年齢は 40 歳代から 90 歳代に分布し、80 歳代が 36 例、70 歳代が 35 例、60 歳代が 33 例の順で多かった。類型は患者 139 例、無症状病原体保有者 2 例で、患者の病型は肺炎型が 133 例、ポンティアック熱型が 6 例であった。

年間を通して届出はあったが、7 月が 18 例と最も多かった。

診断方法は、酵素抗体法又はイムノクロマト法による尿中の病原体抗原の検出が 137 例、検体から直接の病原遺伝子の検出が 27 例、分離・同定による病原体の検出が 19 例であった（重複例有り）。推定感染地域は、国内 127 例、国外 4 例、不明 10 例で、国内感染例のうち県内は 91 例であった。

12) レプトスピラ症

2022 年以降届出のなかったレプトスピラ症は、9 月に 70 歳代の男 1 例の届出があった。診断方法は、検体からの直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及びペア血清での顕微鏡下凝集試験法（MAT）による血清抗体の検出であった。推定感染経路は水系感染又は動物・蚊・昆虫等からの感染で、推定感染地域は国内（詳細不明）であった。

（5）五類感染症

アーベ赤痢 26 例、ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A

表 1-2 四類感染症の届出数

疾 患 名	埼玉県		
	2024年	2023年	2022年
E型肝炎	39	43	35
ウエストナイル熱(ウェストナイル脳炎含む)	0	0	0
A型肝炎	4	3	3
エキノコックス症	0	0	0
エムポックス	0	5	0
黄熱	0	0	0
オウム病	0	1	1
オムスク出血熱	0	0	0
回帰熱	0	0	0
キャサヌル森林病	0	0	0
Q熱	0	0	0
狂犬病	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0
ジカウイルス感染症	0	0	0
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0
ダニ媒介脳炎	0	0	0
炭疽	0	0	0
チケングニア熱	0	0	0
つつが虫病	3	3	0
デング熱	11	9	2
東部ウマ脳炎	0	0	0
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
ニパウイルス感染症	0	0	0
日本紅斑熱	1	0	0
日本脳炎	1	0	0
ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
Bウイルス病	0	0	0
鼻疽	0	0	0
ブルセラ症	1	0	0
ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
発しんチフス	0	0	0
ボツリヌス症	0	0	0
マラリア	3	2	2
野兎病	0	0	0
ライム病	1	1	0
リッサウイルス感染症	0	0	0
リフトバレー熱	0	0	0
類鼻疽	1	0	0
レジオネラ症	141	112	96
レプトスピラ症	1	0	0
ロッキー山紅斑熱	0	0	0

型肝炎を除く.) 17例, カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 104 例, 急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く.) 1例, 急性脳炎 28 例, クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 108 例, 後天性免疫不全症候群 33 例, 侵襲性インフルエンザ菌感染症 30 例, 侵襲性髄膜炎菌感染症 1 例, 侵襲性肺炎球菌感染症 98 例, 水痘 (入院例に限る.) 5 例, 梅毒 477 例, 播種性クリプトコックス症 8 例, 破傷風 2 例, 百日咳 174 例, 風しん 1 例, 麻しん 8 例, 薬剤耐性アシネットバクター感染症 1 例の計 1,124 例であった.

表 1-3 五類感染症の届出数(全数把握)

疾患名	埼玉県		
	2024年	2023年	2022年
アメーバ赤痢	26	28	24
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	17	7	6
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	104	71	72
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	1	6	1
急性脳炎	28	39	35
クリプトスピロジウム症	0	0	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	9	7
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	108	64	41
後天性免疫不全症候群	33	32	27
ジアルジア症	0	3	0
侵襲性インフルエンザ菌感染症	30	9	4
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	2	1
侵襲性肺炎球菌感染症	98	81	47
水痘(入院例に限る)	5	13	10
先天性風しん症候群	0	0	0
梅毒	477	468	469
播種性クリプトコックス症	8	7	10
破傷風	2	4	3
パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
パンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	1
百日咳	174	79	13
風しん	1	1	2
麻しん	8	0	0
薬剤耐性アシネットバクター感染症	1	1	1

1) アメーバ赤痢

男 22 例, 女 4 例, 計 26 例の届出があり, 前年の 28 例を下回った. 症例の年齢は 20 歳代から 80 歳代に分布し, 40 歳代, 50 歳代及び 60 歳代が各 7 例, 30 歳代が 2 例, 20 歳代, 70 歳代及び 80 歳代が各 1 例であった. 病型は腸管アメーバ症が 24 例, 腸管外アメーバ症が 2 例であった. 診断方法は, 全て鏡検による病原体の検出で, 検体は 24 例が大腸粘膜組織及び便粘液, 2 例が膿瘍液であった. 推定感染経路は経口感染が 6 例, 性的接触が 3 例, 不明が 17 例で, 性的接触の内訳は異性間が 2 例, 同性間が 1 例であった. 推定感染地域は, 国内 16 例, 国外 4 例, 不明 6 例であった.

2) ウィルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く.)

B型肝炎 14 例, その他のウィルス性肝炎 3 例の計 17 例の届出があり, 前年の 7 例から大きく増加した. C型肝炎の届出はなかった.

B型肝炎は 10 歳代から 50 歳代の男 14 例の届出があった. 診断方法はいずれも血清 IgM 抗体 (HBc 抗体) の検出であった. ウィルスの遺伝子型は A 型が 5 例, C 型

が 3 例, 不明が 6 例であった. 推定感染経路は性的接觸が 7 例, 針等の鋭利なものの刺入が 1 例, その他が 1 例, 不明が 5 例で, 性的接觸の内訳は異性間が 5 例, 同性間が 2 例であった. また, 推定感染地域は国内が 11 例, 不明が 3 例であった.

その他のウィルス性肝炎は, エプスタイン・バーウィルス (EBV) とサイトメガロウイルスによる肝炎が男 10 歳代で 1 例, EBV による肝炎が女 20 歳代で 1 例の届出があった. 推定感染経路は前者が性的接觸 (異性間), 後者が不明で, 推定感染地域はいずれも国内 (県内) であった. また, エコーウィルス 11 型による肝炎が男 10 歳未満で 1 例の届出があった. 推定感染経路は不明で, 感染推定地域は国内 (県内) であった.

3) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

男 56 例, 女 48 例の計 104 例の届出があり, 前年の 71 例から増加した. 症例の年齢は 0 歳から 90 歳代まで幅広く分布したが, 60 歳以上が 90 例で全体の 86.5% であった. 症状は尿路感染症が 57 例, 菌血症・敗血症が 28 例, 肺炎が 19 例, 胆囊炎・胆管炎が 14 例, 腸炎・腹膜炎が 7 例であった (重複例有り). 検査検体は, 尿が 51 検体, 血液が 23 検体, 咳痰が 16 検体 (その他の検体 (吸引痰) 1 検体を含む) の順に多かった (重複例有り).

分離された菌は多い順に *Enterobacter cloacae* complex が 42 株, *Klebsiella aerogenes* が 29 株, *Klebsiella pneumoniae* が 10 株, *Escherichia coli* が 8 株, *Citrobacter freundii* が 6 株, *Serratia marcescens* が 5 株, *Klebsiella oxytoca* 及び *Morganella morganii* が各 2 株, *Citrobacter koseri*, *Kluyvera intermedia* 及び *Providencia stuartii* が各 1 株報告された (重複例有り).

4) 急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く.)

9 月に男 1-4 歳 1 例の届出があり, 前年の 6 例から減少した. 病原体は不明で, ポリオワクチン接種歴は有りであった. 推定感染経路は不明, 推定感染地域は国内 (県内) であった.

5) 急性脳炎

男 15 例, 女 13 例の計 28 例の届出があり, 前年の 39 例より減少した. 症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布し, 1-4 歳の 13 例が最も多かった.

病原体別では, インフルエンザウイルス B 型が 5 例, マイコプラズマが 3 例, インフルエンザウイルス A 型が 2 例であった. その他は, RS ウィルス, 新型コロナウイルス及びパラインフルエンザウイルスが各 1 例であった. 病原体が特定されなかったのは 15 例であった. 年間を通じて発生がみられたが, インフルエンザウイルスによるものは冬季を中心に発生がみられた. 推定感染地域は, 国内 (県内) が 26 例, 不明が 2 例であった.

6) クロイツフェルト・ヤコブ病 (C D J)

男 1 例、女 1 例の計 2 例の届出があり、前年の 9 例から減少した。いずれも年齢は 70 歳代、病型は古典的 C D J、診断の確実度はほぼ確実であった。

7) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

男 60 例、女 48 例の計 108 例の届出があり、前年の 64 例から大きく増加し、1999 年の感染症法施行以降最多となつた。症例の年齢は 30 歳代から 90 歳代に分布（前年は 1 歳から 90 歳代に分布）し、60 歳以上が 80 例（全体の 74.1%）で、前年（36 例、56.3%）より増加した。診断方法はいずれも分離・同定による病原体の検出で、血清群は A 群が 69 例、B 群が 15 例、C 群が 1 例、G 群が 23 例であった。血清群別の比較では、2024 年は過去 5 年と比較して、前年と同様に A 群の割合が多かった。A 群の 69 例のうち T 型別検査が行われた 66 例の T 型別は、1 型が 32 例、12 型が 7 例、B3264 型が 4 例、4 型及び 9 型が各 1 例、UT が 20 例、14/49 型と UT の同時検出が 1 例であった。同時検出例では、壊死軟部組織から 14/49 型が、血液から UT が検出された。推定される感染経路は創傷感染が 48 例、飛沫・飛沫核感染が 5 例、接触感染が 2 例、その他が 10 例、不明が 44 例（重複例有り）で、推定感染地域は国内が 97 例（県内 91 例）、不明が 11 例であった。また、108 例の届出のうち、届出時点で 19 例の死亡が確認された。死者は 40 歳代以上の各年代でみられた。

8) 後天性免疫不全症候群

男 33 例の届出があった。病型は、A I D S が 16 例、無症状病原体保有者が 14 例、その他が 3 例であった。

症例は 20 歳代から 70 歳代に分布し、30 歳代が 10 例、40 歳代が 9 例、50 歳代が 6 例の順に多かった。A I D S の 16 例の指標疾患の内訳は、ニューモシスティス肺炎が 11 例、サイトメガロウイルス感染症（生後 1 か月以後で、肺、脾、リンパ節以外）及び H I V 消耗性症候群（全身衰弱又はスリム病）が各 2 例、カポジ肉腫、カンジダ症（食道、気管、気管支、肺）、クリプトコッカス症（肺以外）、非ホジキンリンパ腫及び H I V 脳症（認知症又は亜急性脳炎）が各 1 例であった（重複例有り）。推定される感染経路では性的接触が 28 例、その他が 1 例、不明が 4 例で、性的接触の内訳は同性間が 17 例、異性間が 4 例、異性・同性間が 2 例、異性・同性不明が 5 例であった。

また、病型別の年齢分布では、A I D S は 20 歳代から 60 歳代に分布し、30 歳代が 5 例で最も多く、次いで 40 歳代及び 50 歳代が各 4 例であった。無症状病原体保有者は 20 歳代から 70 歳代に分布し、40 歳代が 5 例、30 歳代が 4 例の順に多かった。

9) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

男 17 例、女 13 例の計 30 例の届出があり、前年の 9 例から大きく増加し、全数把握対象疾患に指定された 2013 年以降最多となつた。症例は 0 歳から 90 歳以上に分布し、80 歳代が 8 例、1-4 歳代及び 70 歳代が各 5 例、

60 歳代が 4 例の順に多かった。診断方法は、全て分離・同定による病原体の検出によるもので、全症例で血液から検出され、その他、喀痰 2 例、髄液 1 例からも検出されていた（重複例有り）。ワクチン接種歴は、有りが 4 例、無しが 9 例、不明が 17 例であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が 7 例、飛沫・飛沫核感染又は接触感染及びその他が各 1 例、不明が 21 例であった。推定感染地域は国内が 27 例（県内 24 例）、不明が 3 例であった。

10) 侵襲性髄膜炎菌感染症

5 月に 50 歳代の男 1 例の届出があった。診断方法は、血液からの分離・同定による病原体の検出で、血清群は Y 群と W-135 群の同時検出であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染で、推定感染地域は国内（県内）であった。ワクチン接種歴は不明であった。

11) 侵襲性肺炎球菌感染症

男 51 例、女 47 例の計 98 例の届出があり、前年の 81 例を上回った。症例の年齢は 0 歳から 100 歳代に分布し、70 歳代が 25 例、80 歳代が 17 例、60 歳代が 14 例の順に多かった。10 歳未満では 1-4 歳が 11 例、5-9 歳が 4 例、0 歳が 1 例の報告があった。診断方法は、分離・同定による病原体の検出が 97 例、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及びイムノクロマト法による病原体抗原の検出が各 4 例であった（重複例有り）。症状は発熱が 86 例（87.8%）、菌血症が 84 例（85.7%）、肺炎が 41 例（41.8%）に認められた。ワクチン接種歴は、10 歳未満では、有りが 12 例、無しが 1 例、不明が 3 例で、10 歳代以上では、有りが 8 例、無しが 28 例、不明が 46 例であった。推定感染地域は国内が 78 例（県内 67 例）、不明 20 例であった。

12) 水痘（入院例に限る。）

男 2 例、女 3 例の計 5 例の届出があり、前年の 13 例から減少した。症例の年齢は 0 歳から 30 歳代に分布した。病型は臨床診断例が 3 例、検査診断例が 2 例で、検査診断例の診断方法は、血清 IgM 抗体の検出及び検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出が各 1 例であった。ワクチン接種歴は無しが 3 例、不明が 2 例であった。感染経路は、接触感染が 2 例、飛沫・飛沫核感染又は接触感染が 1 例、不明 2 例で、推定感染地域は国内（県内）が 4 例、不明が 1 例であった。

13) 梅毒

男 345 例、女 132 例の計 477 例の届出があり、前年の 468 例と同水準であった。性比（男/女）は 2.61 で、前年の 2.39 より高くなつた。

症例の年齢は、男では 10 歳代から 90 歳代に分布し、40 歳代の 84 例、30 歳代の 82 例の順に多かった。女では 0 歳から 80 歳代に分布し、20 歳代が 66 例で最も多く 50.0% であった。前年に比べ、男では 60 歳代で減少したもの、40 歳代では増加した。女では 30 歳代及び 40 歳代で減少したものの、10 歳代では増加した。

病型は、男では早期顎症梅毒（I期）が196例、早期顎症梅毒（II期）が73例、晚期顎症梅毒が4例、無症状病原体保有者が72例で、女では早期顎症梅毒（I期）が31例、早期顎症梅毒（II期）が55例、晚期顎症梅毒が2例、先天梅毒が2例、無症状病原体保有者が42例であった。なお、先天梅毒は2015年及び2016年に各1例、2018年に2例、2020年に5例、2021年及び2022年に各2例、2023年に1例、2024年に2例と継続的に届出がある。推定感染経路は、男では性的接觸が307例、不明が38例であった。女では性的接觸が112例、母子感染が2例、針などの刺入が1例、不明が17例であった。性的接觸の内訳では、異性間が男女共に最も多く、男が257例、女が100例であった。性風俗産業の直近6か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男の47.5%、従事歴が女の24.2%に認められ、女の性風俗産業の従事歴の割合は前年の18.1%から増加した。HIV感染症との合併は男10例、女1例、妊娠は女16例に認められた。また、推定感染地域は国内が406例、国外が3例、不明が68例であった。

14) 播種性クリプトコックス症

男5例、女3例の計8例の届出があった。症例の年齢は70歳代で3例、40歳代及び80歳代で各2例、50歳代で1例であった。診断方法は、分離・同定による病原体の検出のみが6例、病理組織学的診断のみが1例、分離・同定及び病理組織学的診断が1例であった。感染原因では、ステロイド内服等による免疫不全が6例、不明が2例であった。推定感染地域は国内が7例、国外が1例であった。

15) 破傷風

3月に70歳代の女1例、7月に80歳代の男1例の計2例の届出があり、前年の4例を下回った。いずれも、診断方法は臨床決定であり、推定感染経路は創傷感染、推定感染地域は国内（県内）であった。ワクチン接種歴は、前者が不明、後者が有りであった。

16) 百日咳

男87例、女87例の計174例の届出があり、前年の79例と比較して増加した。症例の年齢は0歳から80歳代に分布し、10-14歳が45例、1-4歳が26例、5-9歳が24例の順に多かった。診断方法はイムノクロマト法による病原体抗原の検出が85例、単一血清で抗体価の高値が68例、核酸增幅法による病原体遺伝子の検出が27例、分離・同定による病原体の検出が1例、臨床決定が1例であった（重複例有り）。ワクチン接種歴は有りが99例、無しが4例、不明が71例であった。接種歴有り99例のうち87例が4回接種、7例が3回接種、2例が2回接種、3例が1回接種であった。推定感染地域は国内が124例、不明が50例であった。

17) 風しん

3月に20歳代の男1例の届出があった。病型は検査診断例で、診断方法は血清 IgM 抗体の検出であった。

ワクチン接種歴は、1回であった。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内（県内）であった。

18) 麻しん

2022年以降届出がなかった麻しんは、男5例、女3例の計8例の届出があった。年齢階級は、15-19歳が4例、30歳代が2例、20歳代及び40歳代が各1例であった。病型は全て麻しん（検査診断例）で、診断方法は、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgM 抗体の検出が5例、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出のみが2例、血清 IgM 抗体の検出のみが1例であった。ワクチン接種歴は1回が1例、無しが4例、不明が3例であった。推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染が2例、不明が6例であり、推定感染地域は全て国内（県内2例）であった。

19) 薬剤耐性アシネットバクター感染症

6月に80歳代の女1例の届出があった。喀痰から *Acinetobacter baumannii* が分離され、特定薬剤への耐性が確認された。推定感染地域は国内であり、90日以内の海外渡航歴は無かった。

(8) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行う感染症は、届出がなかった。

2 定点把握対象疾患の発生状況

五類感染症定点把握対象疾患の週単位報告の週別報告数、定点当たり報告数を表2-1及び2-2に、年齢階級別報告数を表3に示した。また、月単位報告の月別報告数及び定点当たり報告数を表4に、性年齢階級別報告数を表5に示した。

(1) 内科及び小児科定点（インフルエンザ/COVID-19 定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

2024年の第1週～第52週の累積報告患者数は120,781例であった。定点当たり報告患者総数468.14は前年（528.54）を下回った。2023-2024年シーズンの流行は、例年と比較しても早い時期から報告数の増加が見られ、2023年第37週（9/11-17）には定点当たり報告数10.00を上回った。2023年第43週（10/23-29）には、定点当たり報告数30.00を上回り、第44週（10/30-11/5）にはピークを迎えた。その後、2024年第13週（3/25-31）に至るまで、定点当たり報告数10.00～40.00の範囲内を増減しつつ推移し、2023年第49週に二度目の、2024年第6週には三度目のピークとなり、半年間にわたり多い状況が続いた。

2024-2025年シーズンは、2024年第46週（11/11-17）から報告数の増加が見られ、定点あたり報告数1.00を上回った。2024年第50週（12/9-15）以降、定点当たり報告数は急激に増加し、2024年第50週には注意報レベル基準値である10.00を上回り、翌週の第51週（12/16-22）には警報レベル開始基準値の30.00を上回った。さらに、翌週の第52週（12/23-29）は、定点当たり報告数は76.56であり、これは2024年の定点当

表 2-1 定点把握対象疾患の推移・患者数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日 ～週開始日	インフルエンザ	感新型コロナウイルス感染症	R Sウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性角結膜炎	細菌性結膜炎	無菌性結膜炎	マイコプラズマ肺炎	クフミジア肺炎	感染性胃腸炎	（院内患者）	感新型コロナウイルス	
24-1	01/01	3,551	1,661	2	350	366	526	29	5	1	21	2	7	-	25	-	-	2	-	-	22 42	
24-2	01/08	4,145	2,416	7	242	491	1,181	41	12	3	28	4	7	1	26	-	-	-	-	-	19 75	
24-3	01/15	5,874	3,756	8	186	849	1,655	43	15	4	43	2	10	-	26	-	-	-	-	-	20 76	
24-4	01/22	6,336	4,990	13	189	940	1,692	25	13	5	34	1	12	1	19	-	-	-	-	-	14 81	
24-5	01/29	6,357	4,773	13	167	877	1,473	36	16	3	29	3	8	1	13	-	-	1	-	-	16 60	
24-6	02/05	7,732	3,855	22	146	850	1,221	23	14	1	30	2	6	1	13	1	1	-	-	-	11 79	
24-7	02/12	7,541	2,789	26	121	679	1,181	24	6	3	23	-	6	2	16	-	-	1	-	-	11 74	
24-8	02/19	6,331	2,169	46	106	701	1,040	41	13	1	30	1	10	1	11	-	1	1	-	-	6 51	
24-9	02/26	4,598	1,789	50	94	691	1,005	35	22	4	37	4	3	-	16	-	2	2	-	-	9 59	
24-10	03/04	5,150	1,755	40	72	771	955	40	5	1	29	1	4	1	14	-	-	2	-	1	8 47	
24-11	03/11	5,796	1,642	74	98	830	932	37	13	2	42	-	6	2	9	-	2	-	-	-	9 41	
24-12	03/18	4,569	1,528	104	78	684	693	40	8	7	28	2	9	3	16	-	-	-	1	7	60	
24-13	03/25	3,686	1,312	204	57	642	761	39	9	8	38	1	6	3	23	-	-	-	-	-	7 41	
24-14	04/01	1,608	1,082	219	65	497	651	44	8	5	44	5	12	2	29	-	-	1	-	-	1 40	
24-15	04/08	753	942	295	59	561	707	36	13	7	29	4	6	-	12	-	1	-	-	-	1 45	
24-16	04/15	446	946	326	81	760	719	49	17	8	50	9	13	-	26	-	-	1	-	-	2 34	
24-17	04/22	206	799	352	84	847	781	47	24	5	70	3	17	2	32	-	1	-	-	-	-	25
24-18	04/29	83	552	225	65	550	463	23	38	11	34	2	10	1	21	-	1	-	-	1	2	19
24-19	05/06	60	741	197	85	658	710	86	53	4	42	2	16	5	37	-	3	-	-	-	-	22
24-20	05/13	77	913	216	115	906	851	35	85	18	45	19	20	5	45	-	-	3	-	-	1 34	
24-21	05/20	52	996	217	157	878	871	40	178	14	60	34	23	15	39	-	1	-	-	-	1 35	
24-22	05/27	45	1,128	197	135	843	863	47	241	20	71	50	22	8	44	-	-	1	-	1	2 43	
24-23	06/03	32	1,284	163	146	800	907	66	393	12	66	84	17	9	37	-	-	5	1	-	-	34
24-24	06/10	38	1,333	139	149	796	916	62	702	17	47	148	23	4	47	-	-	7	-	-	2 28	
24-25	06/17	31	1,488	123	161	699	840	59	1,148	20	64	232	21	7	46	2	-	5	-	-	-	42
24-26	06/24	28	1,771	115	126	664	837	68	2,027	11	70	425	20	5	48	-	1	2	-	-	-	44
24-27	07/01	43	2,237	101	122	663	777	76	3,046	16	61	706	11	2	64	-	1	8	-	-	3	70
24-28	07/08	29	2,610	111	126	579	766	57	3,565	29	46	693	15	6	45	1	-	14	-	-	-	91
24-29	07/15	55	3,279	119	97	483	648	38	3,004	27	42	568	6	-	39	1	-	17	-	-	1	98
24-30	07/22	65	3,292	89	92	385	593	46	2,310	33	44	482	9	3	24	-	-	20	-	-	2	78
24-31	07/29	59	2,923	94	85	386	618	27	1,505	36	50	314	8	2	37	2	2	32	-	-	1	101
24-32	08/05	45	2,376	92	97	380	522	32	924	30	42	208	10	4	35	-	-	25	-	-	-	94
24-33	08/12	48	1,574	36	68	178	199	17	500	11	27	86	7	-	31	-	-	25	-	-	1 86	
24-34	08/19	57	2,158	30	48	279	492	20	581	40	56	116	14	2	51	-	1	22	-	-	-	63
24-35	08/26	149	1,935	48	53	367	474	23	924	45	53	108	8	3	33	-	-	14	1	-	2 70	
24-36	09/02	161	2,053	53	55	346	606	12	1,257	48	57	137	19	2	45	-	1	31	-	-	-	71
24-37	09/09	143	1,809	64	51	364	607	22	1,521	78	56	125	13	1	34	-	1	46	-	-	-	46
24-38	09/16	142	1,442	44	63	357	511	29	1,427	63	55	106	8	2	24	-	1	30	-	-	-	31
24-39	09/23	104	1,258	43	54	343	439	18	1,703	77	43	83	15	-	29	-	2	51	-	-	-	35
24-40	09/30	126	1,096	44	37	347	461	27	1,794	123	49	85	12	-	21	-	3	39	-	-	-	32
24-41	10/07	189	813	43	37	358	463	28	2,672	103	34	106	7	1	16	-	2	36	-	-	1	38
24-42	10/14	116	598	43	40	334	421	42	2,608	136	36	77	8	-	15	-	4	37	-	-	1	29
24-43	10/21	145	513	40	46	356	471	36	2,103	140	47	71	4	1	15	-	1	56	-	-	1	16
24-44	10/28	174	482	41	44	328	529	26	1,918	177	45	58	8	2	17	-	1	64	-	-	1	24
24-45	11/04	248	404	24	44	311	424	44	1,312	183	38	31	7	1	25	-	1	53	-	-	2 16	
24-46	11/11	560	552	26	67	424	453	35	949	313	45	18	6	2	25	-	2	52	-	1	4 37	
24-47	11/18	595	495	41	68	379	513	37	779	302	39	20	5	6	15	-	1	56	-	-	4 22	
24-48	11/25	1,434	653	39	81	465	674	78	660	569	46	19	5	6	17	-	49	-	-	12	25	
24-49	12/02	2,543	900	54	111	491	794	64	440	554	38	12	9	7	36	-	1	41	-	-	25 36	
24-50	12/09	5,119	1,078	62	93	501	883	76	286	618	36	3	10	14	41	-	-	35	-	-	44 51	
24-51	12/16	13,326	1,717	67	96	444	972	71	183	608	30	2	10	12	37	-	-	21	-	-	89 69	
24-52	12/23	19,981	2,183	74	85	403	873	58	93	449	32	-	8	16	37	-	1	29	-	-	127 90	
2024年 計		120,781	88,840	4,915	5,194	29,081	39,614	2,154	43,142	5,003	2,251	5,274	556	174	1,498	7	36	941	2	5	492 2,650	
2023年 計		135,836	78,948	5,647	10,996	18,829	50,385	1,244	6,377	117	2,278	10,368	529	81	1,016	11	39	19	-	6	382 382	
2024年/2023年比		0.9	*	0.9	0.5	1.5	0.8	1.7	6.8	42.8	1.0	0.5	1.1	2.1	1.5	0.6	0.9	49.5	0.8	1.3	**	

*新型コロナウイルス感染症は、2023年第19週分(2023年5月8日～14日)から報告が始まつたため、2024年/2023年比は算出していない。

**(入院患者)新型コロナウイルス感染症は、2023年第39週分(2023年9月25日～10月1日)から報告が始まつたため、2024年/2023年比は算出していない。

(- : 0)

たり報告数の最大値にあたると同時に、1999 年の感染症法施行以降、過去 2 番目に高い値であった。年齢階級別では、20 歳未満が全体の 74.8%，10 歳未満は全体の 43.5% であった。

2) 新型コロナウイルス感染症

2024 年第 1 週～52 週の累積報告患者数は 88,840 例、定点当たり報告患者総数は 344.34 であった。2023 年第 19 週 (5/8-14) の報告開始以降、全数報告期に引き続き定期的な流行が観察されており、2024 年は第 4 週 (1/22-28) と第 30 週 (7/22-28) に流行のピークが観察された。第 46 週 (11/11-17) 以降は、再び増加に転じた。2024 年の定点当たり報告数の最大値は第 4 週の 19.12 であり、前年の最大値 (26.95) より減少した。

年齢階級別では、20 歳未満が 30.7%，20 歳以上が全体の 69.3% であり、20 歳以上では 50 歳代が最も多く、次いで 40 歳代が多かった。

(2) 小児科定点把握対象疾患の動向

1) R Sウイルス感染症

2024 年第 1 週～第 52 週の累積報告患者数は 4,915 例であった。定点当たり報告患者総数 30.34 は前年 (35.07) を下回った。定点当たり報告数は、過去と比較しても早い時期である 3 月中旬には増加し始め、第 17 週 (4/22-28) には 2024 年の最大値である 2.17 となった。その後、第 34 週 (8/19-25) にかけて緩やかな減少が続き、第 35 週 (8/26-9/1) から第 48 週 (11/25-12/1) にかけては、定点当たり報告数 0.1～0.4 の範囲で推移

表2-2 定点把握対象疾患の推移・定点当たり報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日 ～週開始日	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSV	咽頭結膜熱	A群溶血性咽頭炎	レンサ球菌咽頭炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性結膜炎	無菌性結膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	「口」型タウガルバウイルス	「口」型タウガルバウイルス	新型コロナウイルス	（入院患者）
24-1	01/01	13.93	6.51	0.01	2.20	2.30	3.31	0.18	0.03	0.01	0.13	0.01	0.04	-	0.61	-	-	0.17	-	-	1.83	3.50	
24-2	01/08	15.88	9.26	0.04	1.48	2.99	7.20	0.25	0.07	0.02	0.17	0.02	0.04	0.02	0.63	-	-	-	-	-	1.58	6.25	
24-3	01/15	22.51	14.39	0.05	1.13	5.18	10.09	0.26	0.09	0.02	0.26	0.01	0.06	-	0.63	-	-	-	-	-	1.67	6.33	
24-4	01/22	24.28	19.12	0.08	1.15	5.73	10.32	0.15	0.08	0.03	0.21	0.01	0.07	0.02	0.46	-	-	-	-	-	1.17	6.75	
24-5	01/29	24.36	18.29	0.08	1.02	5.35	8.98	0.22	0.10	0.02	0.18	0.02	0.05	0.02	0.31	-	-	0.08	-	-	1.33	5.00	
24-6	02/05	29.74	14.83	0.13	0.90	5.21	7.49	0.14	0.09	0.01	0.18	0.01	0.04	0.02	0.31	0.08	0.08	-	-	-	0.92	6.58	
24-7	02/12	29.00	10.73	0.16	0.74	4.17	7.25	0.15	0.04	0.02	0.14	-	0.04	0.05	0.38	-	-	0.08	-	-	0.92	6.17	
24-8	02/19	24.35	8.34	0.28	0.65	4.30	6.38	0.25	0.08	0.01	0.18	0.01	0.06	0.02	0.26	-	0.08	0.08	-	-	0.50	4.25	
24-9	02/26	17.62	6.85	0.30	0.57	4.21	6.13	0.21	0.13	0.02	0.23	0.02	0.02	-	0.39	-	0.17	0.17	-	-	0.75	4.92	
24-10	03/04	19.73	6.72	0.24	0.44	4.70	5.82	0.24	0.03	0.01	0.18	0.01	0.02	0.02	0.33	-	-	0.17	-	0.08	0.67	3.92	
24-11	03/11	22.21	6.29	0.45	0.60	5.06	5.68	0.23	0.08	0.01	0.26	-	0.04	0.05	0.21	-	0.17	-	-	-	0.75	3.42	
24-12	03/18	17.51	5.85	0.63	0.48	4.17	4.23	0.24	0.05	0.04	0.17	0.01	0.05	0.07	0.38	-	-	-	0.08	0.58	5.00		
24-13	03/25	14.18	5.05	1.25	0.35	3.94	4.67	0.24	0.06	0.05	0.23	0.01	0.04	0.07	0.55	-	-	-	-	-	0.58	3.42	
24-14	04/01	6.21	4.18	1.35	0.40	3.07	4.02	0.27	0.05	0.03	0.27	0.03	0.07	0.05	0.69	-	-	0.08	-	-	0.08	3.33	
24-15	04/08	2.91	3.64	1.82	0.36	3.46	4.36	0.22	0.08	0.04	0.18	0.02	0.04	-	0.29	-	0.08	-	-	0.08	3.75		
24-16	04/15	1.72	3.65	2.01	0.50	4.69	4.44	0.30	0.10	0.05	0.31	0.06	0.08	-	0.62	-	0.08	-	-	0.17	2.83		
24-17	04/22	0.80	3.12	2.17	0.52	5.23	4.82	0.29	0.15	0.03	0.43	0.02	0.10	0.05	0.80	-	0.08	-	-	-	2.08		
24-18	04/29	0.33	2.18	1.42	0.41	3.46	2.91	0.14	0.24	0.07	0.21	0.01	0.06	0.02	0.50	-	0.08	-	0.08	0.17	1.58		
24-19	05/06	0.23	2.84	1.20	0.52	4.01	4.33	0.52	0.32	0.02	0.26	0.01	0.10	0.12	0.88	-	-	0.25	-	-	1.83		
24-20	05/13	0.30	3.50	1.32	0.70	5.52	5.19	0.21	0.52	0.11	0.27	0.12	0.12	0.12	1.07	-	-	0.25	-	-	0.08	2.83	
24-21	05/20	0.20	3.82	1.32	0.96	5.35	5.31	0.24	1.09	0.09	0.37	0.21	0.14	0.36	0.93	-	-	0.08	-	-	0.08	2.92	
24-22	05/27	0.17	4.32	1.20	0.82	5.14	5.26	0.29	1.47	0.12	0.43	0.30	0.13	0.19	1.05	-	-	0.08	-	0.08	0.17	3.58	
24-23	06/03	0.12	4.92	0.99	0.89	4.88	5.53	0.40	2.40	0.07	0.40	0.51	0.10	0.21	0.88	-	-	0.42	0.08	-	-	2.83	
24-24	06/10	0.15	5.11	0.85	0.91	4.85	5.59	0.38	4.28	0.10	0.29	0.90	0.14	0.10	1.12	-	-	0.58	-	-	0.17	2.33	
24-25	06/17	0.12	5.72	0.75	0.99	4.29	5.15	0.36	7.04	0.12	0.39	1.42	0.13	0.17	1.10	0.17	-	0.42	-	-	-	3.50	
24-26	06/24	0.11	6.86	0.71	0.78	4.10	5.17	0.42	12.51	0.07	0.43	2.62	0.12	0.12	1.14	-	0.08	0.17	-	-	-	3.67	
24-27	07/01	0.17	8.67	0.62	0.75	4.09	4.80	0.47	18.80	0.10	0.38	4.36	0.07	0.05	1.52	-	0.08	0.67	-	-	0.25	5.83	
24-28	07/08	0.11	10.00	0.68	0.77	3.53	4.67	0.35	21.74	0.18	0.28	4.23	0.09	0.14	1.07	0.08	-	1.17	-	-	-	7.58	
24-29	07/15	0.21	12.56	0.73	0.59	2.95	3.95	0.23	18.32	0.16	0.26	3.46	0.04	-	0.93	0.08	-	1.42	-	-	0.08	8.17	
24-30	07/22	0.25	12.61	0.54	0.56	2.35	3.62	0.28	14.09	0.20	0.27	2.94	0.05	0.07	0.57	-	-	1.67	-	-	0.17	6.50	
24-31	07/29	0.23	11.20	0.57	0.52	2.35	3.77	0.16	9.18	0.22	0.30	1.91	0.05	0.05	0.88	0.17	0.17	2.67	-	-	0.08	8.42	
24-32	08/05	0.17	9.17	0.56	0.60	2.33	3.20	0.20	5.67	0.18	0.26	1.28	0.06	0.10	0.83	-	-	2.08	-	-	-	7.83	
24-33	08/12	0.25	8.28	0.31	0.58	1.52	1.70	0.15	4.27	0.09	0.23	0.74	0.06	-	1.07	-	-	2.08	-	-	0.08	7.17	
24-34	08/19	0.22	8.50	0.19	0.30	1.75	3.09	0.13	3.65	0.25	0.35	0.73	0.09	0.05	1.21	-	0.08	1.83	-	-	-	5.25	
24-35	08/26	0.58	7.47	0.30	0.33	2.27	2.93	0.14	5.70	0.28	0.33	0.67	0.05	0.07	0.80	-	-	1.17	0.08	-	0.17	5.83	
24-36	09/02	0.62	7.90	0.33	0.34	2.12	3.72	0.07	7.71	0.29	0.35	0.84	0.12	0.05	1.07	-	0.08	2.58	-	-	-	5.92	
24-37	09/09	0.55	6.93	0.39	0.31	2.22	3.70	0.13	9.27	0.48	0.34	0.76	0.08	0.02	0.81	-	0.08	3.83	-	-	-	3.83	
24-38	09/16	0.54	5.52	0.27	0.38	2.18	3.12	0.18	8.70	0.38	0.34	0.65	0.05	0.05	0.57	-	0.08	2.50	-	-	-	2.58	
24-39	09/23	0.40	4.82	0.26	0.33	2.09	2.68	0.11	10.38	0.47	0.26	0.51	0.09	-	0.69	-	0.17	4.25	-	-	-	2.92	
24-40	09/30	0.48	4.22	0.27	0.23	2.13	2.83	0.17	11.01	0.75	0.30	0.52	0.07	-	0.50	-	0.25	3.25	-	-	-	2.67	
24-41	10/07	0.73	3.13	0.26	0.23	2.20	2.84	0.17	16.39	0.63	0.21	0.65	0.04	0.02	0.38	-	0.17	3.00	-	-	0.08	3.17	
24-42	10/14	0.44	2.29	0.26	0.24	2.04	2.57	0.26	15.90	0.83	0.22	0.47	0.05	-	0.36	-	0.33	3.08	-	-	0.08	2.42	
24-43	10/21	0.56	1.97	0.24	0.28	2.17	2.87	0.22	12.82	0.85	0.29	0.43	0.02	0.02	0.36	-	0.08	4.67	-	-	0.08	1.33	
24-44	10/28	0.67	1.85	0.25	0.27	2.00	3.23	0.16	11.70	1.08	0.27	0.35	0.05	0.05	0.40	-	0.08	5.33	-	-	0.08	2.00	
24-45	11/04	0.95	1.55	0.15	0.27	1.91	2.60	0.27	8.05	1.12	0.23	0.19	0.04	0.02	0.60	-	0.08	4.42	-	-	0.17	1.33	
24-46	11/11	2.15	2.12	0.16	0.41	2.60	2.78	0.21	5.82	1.92	0.28	0.11	0.04	0.05	0.60	-	0.17	4.33	-	0.08	0.33	3.08	
24-47	11/18	2.29	1.90	0.25	0.42	2.33	3.15	0.23	4.78	1.85	0.24	0.12	0.03	0.14	0.36	-	0.08	4.67	-	-	0.33	1.83	
24-48	11/25	5.52	2.51	0.24	0.50	2.85	4.13	0.48	4.05	3.49	0.28	0.12	0.03	0.14	0.40	-	0.08	4.08	-	-	1.00	2.08	
24-49	12/02	9.74	3.45	0.33	0.68	2.99	4.84	0.39	2.68	3.38	0.23	0.07	0.05	0.17	0.86	-	0.08	3.42	-	-	2.08	3.00	
24-50	12/09	19.61	4.13	0.38	0.57	3.05	5.38	0.46	1.74	3.77	0.22	0.02	0.06	0.33	0.98	-	-	2.92	-	-	3.67	4.25	
24-51	12/16	51.06	6.58	0.41	0.59	2.71	5.93	0.43	1.12	3.71	0.18	0.01	0.06	0.29	0.88	-	-	1.75	-	-	7.42	5.75	
24-52	12/23	76.56	8.36	0.45	0.52	2.46	5.32	0.35	0.57	2.74	0.20	-	0.05	0.38	0.88	-	0.08	2.42	-	-	10.58	7.50	
2024年	計	468.14	344.34	30.34</td																			

が続き、9月以降は定点当たり報告数2.00～3.00付近で推移した。2024年の定点当たり報告数の最大値は、第4週(1/22～28)の5.73であり、前年の最大値(8.04)と比較すると減少したが、年間を通して流行の規模は前年と比較して大きなものとなった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、3歳～9歳が全体の69.0%で、5歳が最も多く、6歳が2番目に多かった。

4) 感染性胃腸炎

2024年第1週～第52週の累積患者報告数は39,614例であった。定点当たり報告患者総数244.53は前年(312.95)と比較して減少した。2023年11月から2024年3月にかけての冬季流行が収束した後、7月上旬にかけて定点当たり報告数5.00付近で推移した。2024年の冬季流行は、11月下旬から始まり、第50週(12/9～12/15)には再び定点当たり報告数5.00を超過した。2024年の定点当たり報告数の最大値は第4週(1/22～28)の10.32であり、前年の最大値(10.18)と同水準であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く、6歳以下が62.9%であった。

5) 水痘

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は2,154例であった。定点当たり報告患者総数13.30は前年(7.73)と比較して増加した。2024年の定点当たり報告数の最大値は第19週(5/6～12)の0.52で、2020年の4月以降4年ぶりに0.50を上回ったが、2020年3月以前と比較すると未だにやや低い水準である。年齢階級別では全ての階級で報告があり、9歳が最も多かった。

6) 手足口病

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は43,142例であった。定点当たり報告患者総数266.31は前年(39.61)と比較して著しく増加した。2024年は過去に観察された流行の傾向と異なり、二峰性の大きな流行

となつた。1度目の流行は、第18週(4/29～5/5)から緩やかに増加し始め、第25週(6/17～23)以降急激に増加し、第28週(7/8～14)に最大値である21.74を迎えた。その後、8月中旬にかけて一度減少したもののが収まることは無く、第41週(10/7～13)に2度目のピークである16.39を迎えた。2024年の定点当たり報告数の最大値である21.74は、2015年の最大値(20.53)と同水準であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く1歳～4歳で全体の66.8%であった。

7) 伝染性紅斑

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は5,003例であった。定点当たり報告患者総数30.88は前年(0.73)と比較して著しく増加し、2018年～2019年以来の流行となつた。定点当たり報告数は、8月中旬までは、2020年5月から続く非常に低い水準で推移していた。第34週(8/19～25)以降緩やかに増加し始め、第46週(11/11～17)から第48週(11/25～12/1)にかけて急激に増加し、第50週(12/9～15)に2024年の最大値である3.77を迎えた。定点当たり報告数3.77は、1999年の感染症法施行以降、最大の値となつた。年齢階級別では5歳が最も多く、3歳～8歳が全体の76.9%であった。

8) 突発性発しん

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は2,251例であった。定点当たり報告患者総数13.90は前年(14.15)と同水準であった。定点当たり報告数は、例年と同様の動向が観察されたが、年間を通して過去5年と比較しやや低い水準で推移した。定点当たり報告数の最大値は第17週(4/22～28)、第22週(5/27～6/2)、第26週(6/24～30)の0.43であった。年齢階級別では、例年同様に1歳が最も多く、2歳未満が全体の75.3%であった。

表3 年齢階級別報告数(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点 週単位報告)

年齢階級	インフルエンザ	感新型コロナウイルス	年齢階級	R/Sウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性球菌感染	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	年齢階級	急性出血性角膜炎	流行性結膜炎	年齢階級	細菌性結膜炎	無菌性結膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感新型コロナウイルス	感新型コロナウイルス	感新型コロナウイルス		
-6ヶ月	286	715	-6ヶ月	648	23	25	333	13	313	2	27	30	-	-6ヶ月	1	8	0歳	1	16	9	-	-	29	97	
-12ヶ月	937	1,306	-12ヶ月	939	211	131	1,998	44	2,527	20	424	342	1	-12ヶ月	2	9	1歳	-	1	139	-	1	54	49	
1歳	2,677	2,178	1歳	1,611	957	887	4,484	124	10,363	166	1,244	1,200	9	1歳	12	29	2歳	-	2	373	1	2	50	26	
2歳	3,136	1,469	2歳	867	684	1,552	3,804	93	7,307	292	394	1,024	15	2歳	6	54	3歳	-	5	301	-	1	33	18	
3歳	3,671	1,174	3歳	465	735	2,226	3,695	78	5,646	481	119	717	54	3歳	6	59	4歳	-	2	47	-	-	9	5	
4歳	4,588	1,144	4歳	194	689	2,924	3,844	136	5,514	734	43	694	65	4歳	4	60	5歳	-	-	10	-	-	4	17	
5歳	5,652	1,164	5歳	92	577	3,328	3,602	170	4,303	800	-	527	101	5歳	15	52	6歳	-	-	8	-	-	2	12	
6歳	6,850	1,208	6歳	33	392	3,302	3,174	193	2,485	780	-	260	90	6歳	11	39	7歳	-	1	7	-	-	5	23	
7歳	7,889	1,193	7歳	17	279	3,175	2,750	225	1,484	561	-	170	77	7歳	7	48	8歳	-	-	11	-	-	3	22	
8歳	8,410	1,282	8歳	11	229	2,789	2,459	234	975	492	-	109	49	8歳	7	31	9歳	-	-	2	9	-	10	30	
9歳	8,402	1,304	9歳	9	128	2,333	1,948	280	714	356	-	65	39	9歳	4	24	10歳	-	-	1	-	-	6	45	
10-14歳	29,301	7,616	10-14歳	18	171	4,548	4,359	526	1,051	299	-	91	53	10-14歳	6	69	11歳	-	2	6	-	-	14	66	
15-19歳	8,506	5,492	15-19歳	2	25	405	593	21	108	4	-	13	1	15-19歳	5	29	20歳以上	1	1	1	-	1	8	73	
20-29歳	6,257	9,133	20歳以上	9	94	1,456	2,571	17	352	16	-	32	2	20-29歳	8	126	30歳以上	1	-	3	-	-	27	83	
30-39歳	7,004	9,632												30-39歳	25	319	40歳以上	1	-	-	-	-	22	123	
40-49歳	7,152	10,250												40-49歳	17	255	50歳以上	1	4	16	1	-	216	1961	
50-59歳	5,312	11,317												50-59歳	16	139									
60-69歳	2,400	7,394												60-69歳	15	75									
70-79歳	1,414	7,601												70歳以上	5	73									
80歳以上	937	6,268																							
合計	120,781	88,840	合計		4,915	5,194	29,081	39,614	2,154	43,142	5,003	2,251	5,274	556	合計	172	1498	合計	7	36	941	2	5	492	2650

(-:0)

9) ヘルパンギーナ

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は5,274例であった。定点当たり報告患者総数32.56は、前年(64.40)と比較して半減した。定点当たり報告数は6月から増加し始め、第27週(7/1-7)に最大値4.36の流行が観察された。その後、8月上旬にかけて減少したが、定点当たり報告数は下がり切らない状況が10月まで続いた。年齢階級別では全ての年齢階級で報告があり、1歳が最も多く、1歳～3歳で全体の55.8%であった。

10) 流行性耳下腺炎

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は556例であった。定点当たり報告患者総数3.43は前年(3.29)と同水準であった。定点当たり報告数の最大値は、第21週(5/20-26)及び第24週(6/10-16)の0.14であった。年間を通して過去5年と同様の範囲で推移しており、際立った報告数の増加は観察されなかった。年齢階級別では6か月末満を除く階級で報告があり、5歳が最も多く、次いで6歳、7歳と報告数が多かった。

(3) 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は174例であった。定点当たり報告患者総数4.24は前年(1.98)と比較して大きく增加了。報告は年間を通して断続的に観察され、5月と12月に増加した。定点当たり報告数の最大値は、第52週(12/23-29)の0.38であった。年齢階級別では、10歳未満が最も多かった。

2) 流行性角結膜炎

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は1,498例であった。定点当たり報告患者総数36.54は前年(24.78)と比較して增加了。定点当たり報告数は、2月から3月中旬にかけて低い水準で推移していたが、3月下旬から増加し、第27週(7/1-7)に最大値である1.52を観察した。その後、10月にかけて減少したものの、12月以降は再び増加に転じ、定点当たり報告数0.80～1.00のやや高い水準で推移した。年齢階級別では、全ての階級で報告があり、10歳未満、30歳代、40歳代の順に多かった。

表4 定点把握対象疾患の推移(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

月別	メシリン耐性 黄色フドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	23	1.92	4	0.33	—	—	132	2.28	47	0.81	20	0.34	21	0.36
2月	16	1.33	4	0.33	—	—	121	2.09	33	0.57	15	0.26	21	0.36
3月	17	1.42	3	0.25	—	—	131	2.26	36	0.62	19	0.33	28	0.48
4月	20	1.67	3	0.25	—	—	122	2.10	38	0.66	29	0.50	22	0.38
5月	17	1.42	4	0.33	—	—	116	2.00	49	0.84	14	0.24	24	0.41
6月	22	1.83	4	0.33	—	—	117	2.02	35	0.60	23	0.40	21	0.36
7月	28	2.33	3	0.25	—	—	135	2.33	37	0.64	11	0.19	20	0.34
8月	17	1.42	1	0.08	1	0.08	130	2.24	27	0.47	15	0.26	27	0.47
9月	24	2.00	3	0.25	—	—	110	1.90	37	0.64	13	0.22	25	0.43
10月	19	1.58	3	0.25	—	—	132	2.28	39	0.67	14	0.24	28	0.48
11月	24	2.00	4	0.33	—	—	119	2.05	28	0.48	17	0.29	27	0.47
12月	22	1.83	5	0.42	—	—	102	1.76	38	0.66	16	0.28	27	0.47
2024年 計	249	20.75	41	3.42	1	0.08	1,467	25.29	444	7.66	206	3.55	291	5.02
2023年 計	184	16.28	35	3.10	2	0.18	1,595	27.50	530	9.14	278	4.79	338	5.83
2024年/2023年比	1.4	1.3	1.2	1.1	0.5	0.5	0.9	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7	0.9	0.9

(-:0)

表5 性年齢階級別報告数(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

年齢 階級	メシリン耐性 黄色フドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	2	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1~4歳	7	6	3	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5~9歳	2	1	2	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
10~14歳	2	—	1	2	—	—	—	4	1	5	—	—	—	—
15~19歳	—	—	—	—	—	—	23	99	3	17	2	8	13	20
20~24歳	2	1	—	—	—	—	113	336	10	57	10	35	38	41
25~29歳	4	—	—	—	—	—	115	253	11	56	16	25	25	12
30~34歳	—	3	—	1	—	—	64	116	13	48	5	18	26	8
35~39歳	5	—	—	—	—	—	48	53	22	31	14	5	22	2
40~44歳	3	2	1	1	—	—	52	63	10	34	12	5	28	4
45~49歳	6	—	—	—	—	—	19	29	12	22	10	7	16	3
50~54歳	5	2	1	1	—	—	21	10	12	29	7	3	12	1
55~59歳	7	1	1	—	—	—	21	6	9	16	10	3	9	2
60~64歳	11	2	3	1	—	—	8	3	2	8	6	—	2	1
65~69歳	12	1	—	—	—	—	5	2	1	4	1	—	3	—
70歳~	99	60	14	8	1	—	2	2	2	8	4	—	2	1
合計	167	82	26	15	1	—	491	976	109	335	97	109	196	95
男女比	2.04	1.00	1.73	1.00	—	—	0.50	1.00	0.33	1.00	0.89	1.00	2.06	1.00

(-:0)

(4) 基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は7例であった。定点当たり報告患者総数0.58は前年(0.98)と比較して減少した。報告は散発的で、1例以上の報告があった週が5週あった。年齢階級別では、50歳以上が6例で85.7%であった。

2) 無菌性髄膜炎

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は36例であった。定点当たり報告患者総数3.00は前年(3.48)と同水準であった。報告は年間を通して断続的に観察され、52週のうち25週で1例以上の報告があった。また、第36週(9/2-8)から第48週(11/25-12/1)の約3か月間で、20例(55.6%)の報告があった。定点当たり報告数の最大値は、第42週(10/14-20)の0.33であった。年齢階級別では20歳未満が72.2%，20～70歳未満が16.7%，70歳以上が11.1%であり、0歳が16例と最も多かった。

3) マイコプラズマ肺炎

2024年の第1週～第52週の累積報告患者数は941例であった。定点当たり報告患者総数78.42は前年(1.70)と比較して著しく増加した。定点当たり報告数は、1月から6月にかけて低い水準で推移したが、7月から増加し始め、第44週(10/28-11/3)をピークとする大きな流行となった。2024年の最大値である第44週の定点当たり報告数5.33は、1999年の感染症法施行以降、最大の値となった。年齢階級別では、5-9歳、10-14歳、1-4歳の順に多く、この3階級で、全体の86.4%であった。

4) クラミジア肺炎(オウム病を除く。)

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は2例であった。2020年から2023年にかけて報告がなかったため、5年ぶりの報告となった。報告は、第23週(6/3-9)と第35週(8/26-9/1)に各1例であり、年齢階級は前者が5-9歳、後者が70歳以上であった。

5) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

2024年の第1週～第52週の累積報告患者数は5例であった。定点当たり報告患者総数0.42は前年(0.54)と同水準で、2020年以降、春から初夏にかけての流行は確認されていない。報告患者数は5-9歳が2例、1-4歳、10-14歳及び55-59歳が各1例であった。

6) インフルエンザ(入院患者)

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は492例であった。定点当たり報告患者総数41.00は前年(34.11)を上回った。2023-2024年シーズンの報告数は、前年9月から3月にかけて多い状況が続いた。2024-2025年シーズンは、11月下旬から増加し始め、第51週以降、急激に増加した。定点当たり報告数の最大値10.58は、第52週(12/23-29)に観察され、前年の最大値(2.75)

を大きく上回った。年齢階級別では、10歳未満が27.0%，70歳以上が43.9%であった。

7) 新型コロナウイルス感染症(入院患者)

2024年第1週～第52週の累積報告患者数は2,650例、定点当たり報告患者総数は220.83であった。2024年は第4週(1/22-28)と第31週(7/29-8/4)にピークが確認された。定点当たり報告数の最大値は、2度目のピークにあたる第31週の8.42であった。年齢階級別では、70歳以上の報告が多く、全体の74.0%であった。

8) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2024年1月～12月の累積報告患者数は249例であった。定点当たり報告患者総数20.75は前年(16.28)を上回った。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数は最小値1.33、最大値2.33の範囲で推移した。最大値は前年の最大値(2.00)をわずかに上回った。年齢階級別では、70歳以上が159例(男:99例、女:60例)で最も多く、全体の63.9%であった。

9) ペニシリーン耐性肺炎球菌感染症

2024年1月～12月の累積報告患者数は41例であった。定点当たり報告患者総数3.42は前年(3.10)と同水準であった。年間を通して報告があり、定点当たり報告数は最小値0.08、最大値0.42の範囲で推移した。年齢階級別では、70歳以上が22例(男:14例、女:8例)で、全体の53.7%であった。

10) 薬剤耐性綠膿菌感染症

2024年1月～12月の累積報告患者数は1例であった。定点当たり報告患者総数0.08は前年(0.18)と比較してわずかに減少した。男1例の報告が8月にあり、年齢階級は70歳以上であった。

(5) 性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

2024年1月～12月の累積報告患者数は1,467例(男491例、女976例、性比0.50)であった。定点当たり報告患者総数25.29は前年(27.50)と同水準であった。定点当たり報告数は最小値1.76、最大値2.33の範囲で推移した。男の報告患者の多い年齢階級は、25-29歳の115例、20-24歳の113例で、男全体の46.4%であった。女の報告患者の多い年齢階級は、20-24歳の336例、25-29歳の253例で、女全体の60.3%であった。

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

2024年1月～12月の累積報告患者数は444例(男109例、女335例、性比0.33)であり、前年(男99例、女431例)と比較して、男は同程度、女は減少した。定点当たり報告患者総数7.66は、前年(9.14)と比較して減少した。定点当たり報告数は、最小値0.47、最大値0.84の範囲で推移した。男の報告患者の最も多い年齢階級は、35-39歳の22例であった。女の報告患者の多い年齢階級は、20-24歳の57例、25-29歳の56例、30-34歳の48例で、女全体の48.1%であった。

3) 尖圭コンジローマ

2024年1月～12月の累積報告患者数は206例（男97例、女109例、性比0.89）であり、前年（男114例、女164例）と比較して、男は同程度、女は減少した。定点当たり報告患者総数3.55は、前年（4.79）と比較して減少した。定点当たり報告数は最小値0.19、最大値0.50の範囲で推移した。男の報告患者の最も多い年齢階級は、25-29歳の16例であり、20-49歳が男全体の69.1%であった。女の報告患者の多い年齢階級は20-24歳の35例、25-29歳の25例、30-34歳の18例で、女全体の71.6%であった。

4) 淋菌感染症

2024年1月～12月の累積報告患者数は291例（男196例、女95例、性比2.06）であり、前年（男244例、女94例）と比較して男は減少、女は同程度であった。定点当たり報告患者総数5.02は、前年（5.83）と比較して減少し、1999年の感染症法施行以降、最小となった。定点当たり報告数は最小値0.34、最大値0.48の範囲で推移した。男の報告患者の最も高い年齢階級は20-24歳の38例であり、20-44歳が男全体の70.9%であった。女の報告患者の最も高い年齢階級は20-24歳が41例であった。

(6) 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

2024年の埼玉県における発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものの届出はなかった。

まとめ

2024年の感染症発生動向調査に基づく患者届出について、各疾患別にその動向をまとめた。

全数把握対象疾患の二類感染症では、結核が728例の届出があった。無症状病原体保有者及び疑似症患者を除く結核患者数は472例で、前年と比較して減少した。

三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症は前年に比べ増加し、2021年以降増加傾向にある。

四類感染症は、E型肝炎、A型肝炎、つつが虫病、 Dengue熱、日本紅斑熱、日本脳炎、ブルセラ症、マラリア、ライム病、類鼻疽、レジオネラ症、レプトスピラ症の計12疾患の届出があった。日本脳炎は感染症法に基づく調査が開始された1999年以降、県内初の届出であった。

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、

侵襲性肺炎球菌感染症、水痘（入院例に限る。）、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、百日咳、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネットバクター感染症の計19疾患の届出があった。劇症型溶血性レンサ球菌感染症は108例の届出があり、1999年以降最多となった。また、2022年以降届出がなかった麻しんは8例の報告があった。

定点把握対象疾患の定点当たり報告患者総数が前年より増加した疾患は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎、マイコプラズマ肺炎、インフルエンザ（入院患者）、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症であった。特に、伝染性紅斑及びマイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数の最大値は、1999年以降最大となった。

新型コロナウイルス感染症は、2024年1月と7月に流行のピークがみられた。